

今後のこども・若者の社会参画及び意見反映について (素案)

令和6年〇月

こども家庭審議会基本政策部会

こども・若者参画及び意見反映専門委員会

この資料について

- こども・若者の意見反映・社会参画について、「こども・若者参画及び意見反映専門委員会」がこれまで話し合ったことや「こども大綱」で決まったことを踏まえて、**今後こども家庭庁や専門委員会が考えたり、取り組んだりした方がいいこと**をまとめたもの。
-
- こども・若者参画のモデルとなる「委員会」として、こども・若者にもわかりやすいよう、**やさしい言葉でまとめたもの。**

1

国が意見を聴くための取組

● 高校生や大学生、20代の若者が大人の会議の委員になった。

- ・ 専門委員会では、こども・若者委員が意見を言いやすい環境づくりのため、会場や席の配置、事務局の服装を私服にするなどの会議の運営の仕方に工夫するようにした。

【こども家庭審議会の高校生～20代委員の構成割合】（令和6年3月12日現在）

- ・ こども家庭審議会（24.0%（6/25人））
- ・ こども家庭審議会基本政策部会委員（27.3%（6/22人））
- ・ こども家庭審議会基本政策部会こども・若者参画及び意見反映専門委員会（33.3%（4/12人））



こども・若者参画及び意見反映専門委員会の様子

● 意見反映の取組(こども若者★いけんぷらす)を始めた。

- ・ 対面・オンライン・アンケート・チャット・出向く型など多様な手法を組み合わせた。
- ・ テーマについて、参加者に合わせたわかりやすい資料を使って、あらかじめ説明を行った。
- ・ ファシリテーターが参画して、意見を言いやすい場づくりをした。
- ・ 意見が反映されたかどうか、分かりやすくフィードバックした。
- ・ こども家庭庁のホームページに資料を載せて、こども・若者の意見を聴くことの大切さについての理解をひろげた。
- ・ こども・若者が運営にも参画した。

【こども若者★いけんぷらす実績】
（令和6年3月12日現在）
実施テーマ数：27テーマ
意見を聴いた人数：約2,600人（延べ人数、アンケート回答件数含む）

● 様々なこども・若者の声を聞くにはどうしたらよいかまとめた。

※「多様なこども・若者の意見反映プロセスの在り方に関する調査研究～声を聴かれにくいこども・若者の意見を聴き、政策に反映するために～報告書(仮称)」
URL:公表後追記

● ファシリテーターを育てるためのプログラムを作った。

※「ファシリテーター養成プログラム(仮称)」
URL:公表後追記

2 自治体が意見を聴くことをサポートする取組

● 国や都道府県、市区町村で働く人のためのガイドラインを作った。

- ・ 国や都道府県、市区町村で働く人に向けて、こどもや若者の意見を聴くことが大事だと知ってもらい、意見を聴く取組をしてもらうために、ガイドラインを作った。

※ 「こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン」(令和〇年〇月〇日〇〇決定)

URL:公表後追記

● 「こども・若者意見反映サポート事業」を始めて、ファシリテーターやこども家庭庁で働く人が県や市区に行って、意見を聴く様子を他の自治体の人に見てもらったり、意見を聴くにはどうすればよいのか、相談に乗った。

- ・ 参加者や視察した自治体から前向きな感想が得られた一方で、テーマ設定や参加者募集など工夫が必要な点があることもわかった。

【令和5年度 こども・若者意見反映サポート事業実績】 (実施順)

都道府県：山梨県、宮城県 / 市区町村：太田区、近江八幡市

1

国が意見を聴くための取組

- 「こども若者★いけんぷらす」を来年度も行う。
 - ・ 多様なこども・若者の声を聞くために、「出向く型」の回を増やす。「出向く」先の負担にならないように工夫する。
 - ・ 「こども若者★いけんぷらす」を広く知ってもらうため、国の取組を広く発信する。
 - ・ 意見を表すことの大切さをみんなに知ってもらうようにする。
- **こども・若者が大人の会議に参加しているか調べ、どうすれば参加しやすいか、専門委員会で考える。**
 - ・ こども・若者の委員が安心して参加できるように、気を付けた方が良く、実際に行っている工夫を調べる。
- **こども・若者の意見が聴かれているか、今の状況を調べる。**
 - ・ どのように何に取り組んでいるか、多様な声を聴くための工夫や、プロセスや悩んだことも含めて、周りの職員に知ってもらう。
- **こども・若者が主体となって活動する団体と意見交換を行う。**

2

自治体が意見を聴くことをサポートする取組

- 作った国や都道府県、市区町村で働く人のためのガイドラインを多くの人に知ってもらう。
- ファシリテーターを育てるプログラムを使って、ファシリテーターとして必要なスキルを学べる機会を作る。
- 都道府県や市区町村でこども・若者の意見が聴かれているか、今の状況を調べる。
 - ・ 都道府県や市区町村が取り組んでいる良い例についても調べる。
 - ・ どのように何に取り組んでいるか、多様な声を聴くための工夫、プロセスや悩んだことも含めて、周りの職員に知ってもらう。
- 「こども・若者意見反映サポート事業」を実施し、ファシリテーターが県などに行って、意見を聴く取組をサポートすることで、良い例を作り出して、周りの都道府県や市区町村にも意見を聴く取組が広まるようにする。

3

こどもや若者が集まって活動する団体の後押し NEW

- こどもや若者が集まって活動する団体と国・都道府県や市町村が協力している例を集めて、こどもや若者が社会に参画することの意義や大切さをみんなに知ってもらい、後押しにつなげる。

1 国が意見を聴くための取組

- 「こども若者★いけんぷらす」をより良くしていく。
 - ・ ぷらすメンバー(登録しているこども・若者)の数を1万人にする。
 - ・ 「テーマ」の設定、聴く質問について、こども・若者が関われるように考える。
- 年齢や発達の程度に応じて、多様な意見を聴くことができるように工夫する。
 - ・ 年齢などを踏まえて、いろいろな手法で意見聴取を行えるように、その手法や注意すべき点を考える。
 - ・ あらゆる多様な声を聴くことができるように、その工夫の方法や現状を把握する。
- これまで伝えてもらった意見について、個人情報保護を行った上で一覧にする。

2 自治体が意見を聴くことをサポートする取組

- 国や都道府県や市区町村がやっていることを調べた結果から、何ができていて、何ができていないか、考える。
 - ・ どうしたら「できなかったこと」を「できる」ようにしていくか、考える。
- 都道府県や市区町村が、自分たちでファシリテーターを育てることができるようにする。

3 こどもや若者が集まって活動する団体の後押し

- こどもや若者が集まって活動する団体を後押しする方法を考える。

4

その他

- **すべてのこども・若者が自由に意見を表明しやすい環境づくりに向けて、取り組む。**
 - ・ こどもや若者から意見を聴くことの重要性や必要性を、学校や教育委員会などに知ってもらう。学校や教育委員会など良い取組の例を集める。
- **こどもや若者から意見を聴いたり、こどもや若者が参加する方法について、どうやって評価するかを考える。**
- **自治体に置かれている相談救済機関の例や、寄せられた意見の取り扱い方について調べたことを踏まえて、どのようなことができるか考える。**